

なぜ挫折するのか

続 楽器ビギナーはなぜ挫折するのか

きりばやしひろき

[楽器挫折者救済合宿・主宰、叫ぶ詩人の会・音楽プロデューサー]

その28・初年度の大きな分岐点

[プロフィール]

1971年生まれ、18歳からプロドラマとして活動。1994年「叫ぶ詩人の会」でメジャーデビュー。ドラム、ギター、キーボード、プログラミング、作曲、編曲を担当。並行してラジオパーソナリティ、TV番組にギューラー出演、CM出演など幅広く活動。2003年に立ち上げた「Q-sai@楽器挫折者救済合宿（旅行企画・実施：株式会社日本旅行）」は記録的な開催数を誇り、これまでに延べ数千人が参加。NHK・Eテレ『あなたもアーティスト挫折者救済！きりばやしひろきのギター塾』出演＆監修をはじめ各種メディアを通じての取り組み、執筆・講演、ビギナーを救う製品の開発など様々なスタイルで「楽器挫折者」と向き合い続ける。著書に『大人のための3日間楽器演奏入門（講談社・日本図書館協会・第2540回選定図書）』などがある。



伝えぬも親切

良いことばかりでもない。
敷居が低いあまり、ターゲティングした覚えのない習熟層も必ず混じってくる。

勿論、良い影響を持ち込んでくれるのなら誰だろうが

大歓迎なのだが、なまじ経験があることで手を抜いたり、普段やり慣れている何かをチャチャっと見繕う程度でカンペ抱えて出てきて

この手の現場ではとくに悪目立ちする「伸び代だらけなのに成長する気ぜ口病」患者たちである。ビギナーは良くも悪くも人や環境から影響を受けやすい。ナメた空気は伝染しやすいので、時には見えない鞭で引っ叩いて空気を整えることもある。昭和の「腐ったみかん」的思考で不適切だと揶揄されそうだが、真剣に取り組むビギナーがモテイベートされなければ催しとして本末転倒。幸い参加者らとの利害関係が薄いので、必要な愛の鞭が振り下ろしやすい。

ビギナーのために採算度外視で開催する現場がある。直近では「素人だけの300秒ギター大会」という名の、昭和の人間なら水着だらけのアレを連想しそうな、しかし全くいかがわしくない、小学生も参加できる健全な音楽イベントをTOKYOハンドクラフトギターフェスの初日にセツトした。水着ならともかく楽器に関する素人だけにつき、何万歩譲つても観客からお金をいただくに値する見せ物には成り得ないので、来場者は入場無料、出場者からは経費程度をいただくのみ。まるで採算は合わないが、放つておけば消えていたであろうビギナーがアクテ

イブユーザーで在り続けることの価値はバランスシートでは測れない。

伝えぬも親切
良いことばかりでもない。
敷居が低いあまり、ターゲティングした覚えのない習熟層も必ず混じてくる。
勿論、良い影響を持ち込んでくれるのなら誰だろうが
大歓迎なのだが、なまじ経験があることで手を抜いたり、普段やり慣れている何かをチャチャっと見繕う程度でカンペ抱えて出てきて
この手の現場ではとくに悪目立ちする「伸び代だらけなのに成長する気ぜ口病」患者たちである。ビギナーは良くも悪くも人や環境から影響を受けやすい。ナメた空気は伝染しやすいので、
時には見えない鞭で引っ叩いて空気を整えることもある。昭和の「腐ったみかん」的思考で不適切だと揶揄されそうだが、真剣に取り組むビギナーがモテイベートされなければ催しとして本末転倒。幸い参加者らとの利害関係が薄いので、必要な愛の鞭が振り下ろしやすい。



本気で頑張るビギナーを励ますと同時に、そのひたむきさによって、伸び代だらけなのに成長する気ぜ口病患者達を改心させることも必要

分岐点は初年度にあり

初めて人前に立つ高校生、父に見守られて弾き語る女兒、長いブランクを経てオリジナルを披露した男性、緊張で逃亡寸前の女性はソロギターでバッハを演奏……など、様々なタイプのビギナーがそれぞれの300秒に魂を込めたこの催しは「300秒に全力を投じたか否か」を尺度にデザインされて

いるため、譜面台の用意がない（百歩譲つて持参は許可）。数か月程度のビギナーが数十年選手に（感動値として）勝る場面も多く、その直向きさに涙する者さえ珍しくない。「面白かった」などのお声をいただいたので私個人的には採算が獲れている。無論、「伸び代だらけなのに成長する気ぜ口病」患者たちが影響され改心する狙いも計算にあつての催しだ。

兎角ビギナーは上手な演奏に憧れ、己の不甲斐なさに打ちのめされもするが、そもそも多様な音楽の海を「上手い／下手」一本の定規で測ることは合理性がない。それで挫折問題が食い止められているのならば余計なお世話だが、ことビギナーを救う試みにおいて「上手い／下手」一辺倒の空気は、思考停止の産物のような気がしてならない。毎分毎秒ビギナーの過半数が挫折し続ける中、彼らの消費行動を養分とする我々業界人は、彼らの鬼門である初年度に何らかのインパクトを施せているだろうか。消費量のみで物事をジャッジしていないだろうか。SNSでも店頭でも会場でも道端でも何でもいい。本気で頑張るビギナーを積極的に励ます行為はノーコストだ。くどいようだがビギナーの運命を左右する分岐点は初年度にある。嘘のない拍手を浴びたビギナーは強い。